出演者・出演団体のご紹介（登壇順）①

【基調講演】

○　原 研哉　氏

（グラフィックデザイナー／日本デザインセンター代表取締役社長）

1958 年生まれ。グラフィックデザイナー。日本デザインセンター代表取締役社長。武蔵野美術大学教授。

世界各地を巡回し、広く影響を与えた「RE-DESIGN：日常の 21 世紀」展をはじめ、「HAPTIC」「SENSEWARE」「Ex-formation」など既存の価値観を更新するキーワードを擁する展覧会や教育活動を展開。

また、長野オリンピックの開・閉会式プログラムや、愛知万博のプロモーションでは、深く日本文化に根ざしたデザインを実践した。

2002 年より無印良品のアートディレクター。活動領域は極めて広いが、透明度を志向する仕事で、松屋銀座、森ビル、蔦屋書店、GINZA SIX、MIKIMOTO などの VI を手がける。

外務省「JAPAN HOUSE」では総合プロデューサーを務める。

2019 年 7 月にウェブサイト「低空飛行」を立ち上げ、個人の視点から、高解像度な日本紹介を始め、観光分野に新たなアプローチを試みている。

著書『デザインのデザイン』（岩波書店、2003 年）、『DESIGNING DE-SIGN』（Lars Müller Publishers, 2007）、『白』（中央公論新社、2008 年）、『日本のデザイン』（岩波新書、2011 年）、『白百』（中央公論新社、2018 年）など著書多数。

【特別講演】

○「銀座・日本橋エリアにおけるインバウンド振興活動について」

中 弥生 氏（株式会社アライブ・ホスピタリティ・デザイン代表取締役）

老舗店や有名ブランドの直営店が立ち並び日本有数の繁華街である銀座は、昨今インバウンドの増加によりさらなる賑わいを見せています。また、100 年以上の歴史がある組織団体「全銀座会」は銀座ブランドの確立に寄与してきました。当組織をはじめ関連団体と連携をとりながら、銀座ホテル協議会（仮称）の立ち上げや自治体アンテナショップとの連携、AfterMICE としての役割の確立を目指し、銀座に訪れるインバウンドの方々に、東京だけではない日本の魅力を伝えていきます。

○「ショップ以外の販売事例」

晝間 友仁 氏（株式会社みずほ銀行　公共法人部　 渉外第二チーム）

鶴田　敏 氏（株式会社ハートエージェンシー営業開発部　副部長）

みずほ銀行では、大手町と内幸町にある本部ビル等の展示スペースにおいて、地方公共団体のアンテナショップと連携して、地域の特産品を販売する物産展を開催しています。株式会社ハートエージェンシーでは、みずほ銀行から物産展の運営業務全般を受託しており、地方公共団体とのリレーションを深めながら地方創生に貢献しています。

出演団体のご紹介（登壇順）②

【店舗事例発表】

○ひろしまブランドショップ TAU（出店自治体：広島県、所在地：銀座）

様々な広島の「宝」が詰まった場所、それが「ひろしまブランドショップＴＡＵ」です。 ＴＡＵは「たう」、届くという広島の方言です。

広島の魅力を全国、そして世界に届け、広島のファンを増やす拠点となるようにという想いが込められています。

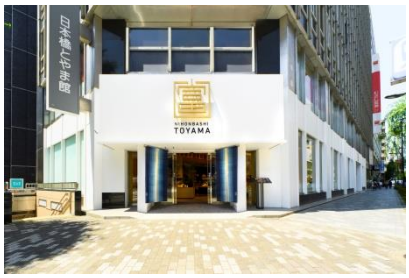
広島の特産物や名産品などを集めた売り場から、地元食材を使用した名物料理をふるまう飲食店、プロスポーツのグッズコーナー、広島の魅力を発信するイベントスペースまで、本物の広島に触れあえる「モノ」と「コト」がたくさん詰まった様々な広島の情報を発信するブランドショップです。

○ 果房　メロンとロマン（出店自治体：青森県つがる市、所在地：神楽坂）

青森県つがる市は、市の特産品の一つである"メロン"に特化した日本初のメロン工房「果房 メロンとロマン」を、市のアンテナショップとして７月７日（日）東京・神楽坂にオープンしました。「果房 メロンとロマン」は、フルーツ・メロン離れが起こっている日本において『メロンをもっと愛される果物にしたい』という「ロマン」を掲げて生まれました。

つがる市をはじめ、日本各地から旬のメロンを集め、オリジナルメニューを提供するとともに、「味わう、香る、見る、聴く、触る」五感のすべてでメロンを体験できる「五感でメロンを体験する工房」として、これまでにない新しい形のアンテナショップとなっています。

○ 日本橋とやま館（出店自治体：富山県、所在地：日本橋）



「富山の上質なライフスタイル」の提供をコンセプトに、2016年６月にオープンした日本橋とやま館。富山の食品や工芸品約1,000 点を販売するショップ、県内 17 蔵の地酒が味わえるバーラウンジ、ブリ・シロエビ・ホタルイカ・ベニズワイガニなど富山直送の海の幸を提供する和食レストラン、英語対応可能のコンシェルジュが常駐する観光交流サロン、様々な展示やイベントを行う発信する交流スペースの５つのフロアで、富山の魅力を日々発信しています。